第 29 回　電顕サマースクール 2018 in 信州松本

開催日：　2018 年　8 月 4 日（土）～ 5 日（日）
テーマ：　「生物の電子顕微鏡試料作製法を理解しよう
=クライオから３次元コンピュータグラフィックスまで=」
主催：　公益社団法人 日本顕微鏡学会
会場：　信州大学医学部地域保健推進センター（一部　旭総合研究棟）
https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/
信州大学松本キャンパス内；長野県松本市旭３－１－１
募集人数：　45 名（先着順）
募集期間：　2018 年 4 月 9 日（月）～ 6 月 22 日（金）
スクールウェブサイト　http://microscopy.or.jp/summerschool/
（申し込みは、こちらのウェブサイトをご覧ください。）
実行委員長：寺田 信生（信州大学）、実行副委員長：高木 孝士（昭和大学）

公益社団法人 日本顕微鏡学会主催「第 29 回電顕サマースクール 2018」を、北アルプス山麓の信州松本で開催いたします。生物を対象とする電子顕微鏡講座として、電顕を始めたい方からステップアップしたい方まで、専門の先生方による講演と実習を企画しました。従来から必要な電顕試料作製法や免疫電顕法、電顕機器作製をリードする方からの基礎的な話はもとより、最新の凍結技法とくにノーベル賞に至ったクライオ電子顕微鏡や、走査型電顕を用いた３次元コンピュータグラフィックスまで、広く生物応用が理解できると思います。参加者が気軽に体得が出来るように、実習も設定しました。医学や生物学を含めた大学・研究機関・企業を始め電顕観察に興味ある皆様、是非とも御参加ください。

講演

- ミクロ世界を可視化する電子顕微鏡の概要　多持 隆一郎 先生（日立ハイテクノロジー）
- 動物試料の固定・脱水・包埋の基礎　立花 利公 先生（東京慈恵医科大学）
- 包埋試料の超薄切片作製から透過型電顕（TEM）観察へ　高木 孝士 先生（昭和大学）
- 電子顕微鏡で見る生体試料の 3 次元構造　葦原 雅道 先生（サーモフィッシャーサイエンティフィック日本エフイー・アイ）
- 生きた動物臓器の機能形態像を探る：凍結技法の意義　大野 伸一 先生（山梨大学名誉教授）
- 細胞組織学のための凍結技法から広がる電子顕微鏡法：徳安法と高圧凍結法・凍結置換法　伊藤 喜子 先生（ライカ マイクロシステムズ）
- クライオ電顕の試料作製とデータ解析　小田 賢幸 先生（山梨大学）
- 走査型電顕（SEM）の基礎から生物応用へ　山口 隼司 先生（カールツァイス）
- 走査型電子顕微鏡による生物試料の３次元超微形態解析　大野 伸彦 先生（自治医科大学）
- イオン液体の生物電顕試料への応用　桑畑 進 先生（大阪大学）
- SEM による最新の生物試料観察例 ～低真空 SEM から FE-SEM まで～　許斐 麻美 先生（日立ハイテクノロジー）
- Correlative Light & Electron Microscopy 光電子相関顕微法　（日本電子 Nikon）
- 標的物質の局在を電顕で見る包埋前染色法　秋元 義弘 先生（杏林大学）
- 免疫電顕法：包埋後染色法と抗原賦活化　山下 修二 先生（慶応大学）

実習（上記の講師に加えて、経験の多いスタッフが丁寧にお教えいたします。）

- 実験動物（マウス）の取扱い、灌流固定、脱水、包埋、電子染色
- 高圧凍結技法、超薄切、電子顕微鏡（TEM, SEM)
- 急速凍結技法、生体内凍結、凍結置換固定
- 連続電子顕微鏡画像を用いた３次元データ解析
- 包埋前染色法、包埋前染色法

参加費用　講演と実習の費用（テキスト代、昼食代を含みます）

日本顕微鏡学会・非会員	16,000 円
会員	13,000 円
学生（会員不問）	7,000 円
懇親会費	2,000 円

連絡先　公益社団法人 日本顕微鏡学会事務局
〒162-0814　東京都新宿区新小川町 4-21-401 光風ビル
TEL：03-6457-5156　FAX：03-6457-5176
E-MAIL: jsm-basic@microscopy.or.jp